

箕輪山光西寺の歴史

昭和のはじめ、茨城県からこの地にやって来た浄土真宗本願寺派布教使・渡辺秀心が、立川市錦町で始めた説教所が光西寺の起源です。秀心は、当時都市化しつつあった立川を、布教の地として選んだのでした。

そして戦後、昭和20年代に現在の羽衣町にまず墓所を作り、昭和30年代に本堂などの建物を建立して、この地に寺基を定めました。山号の「箕輪山」は、かつてこの地にあった「箕輪城」に由来し、現在「みのわ」は町会名にもなっています。

もともと立川市には、浄土真宗本願寺派の寺院はありませんでした。新潟・北陸や広島・九州など全国の真宗地帯からこの地に移り住んできた人々の中には浄土真宗の御門徒が多く、そうした御門徒から布教の要請があったことも、この地に寺を建立するきっかけになりました。

現在ではこれらの地域の出身者や浄土真宗の家に生まれた人だけでなく、さらに幅広い人たちが光西寺に墓地を求めて、御門徒になっておられます。そこで光西寺は、伝統と現代を融合させた新しい浄土真宗の寺院作りを目指して参りたいと考えております。

浄土真宗本願寺派 箕輪山 光西寺



〒190-0021

東京都立川市羽衣町3-20-16

<https://www.kousaiji.tokyo/>

TEL : 042-522-3413

FAX : 042-524-7788

中央線 立川駅南口 タクシー約8分

南武線 西国立駅 徒歩約10分

立川聖苑（火葬場）の隣

